

看護管理 第12巻 総目次

2002年(1月～12月号)

*表示は、著者名(発表当時の所属)：題名、号数、掲載ページ。

特集

これからの看護管理者がもつべき視点と発想

(1号)

武藤正樹(国立長野病院)・嶋森好子(前日本看護協会)・桑田美代子(青梅慶友病院)・永池京子(浦添総合病院)：[座談会]キーワードから探るこれからの看護管理，1，6-15.

池田優子(公立藤岡総合病院)：カウンセリングマインド——他者の声に耳を傾ける，1，16-17.
江藤かをる(エデュネット協会)：患者満足に基づく看護ビジョン，1，18-19.

服部俊子(日本看護協会神戸研修センター)：看護管理者の視座としての倫理，1，20-21.

迫田朋子(日本放送協会)：社会とのコミュニケーション——患者・家族の思いを社会に伝える役割，1，22-23.

新田章子(東京医科歯科大学大学院)：ベンチマーキングとクリニカルインディケーター——質の改善・評価と、その指標，1，24-26.

鈴木利廣(弁護士)／聞き手・福留はるみ(聖母女子短期大学)：[インタビュー]医療事故が起こったときどうするか——根拠と誇りをもって行動するために，1，27-35.

実践能力の向上を支援するプログラム(2号)

望月さち子(聖隷浜松病院)：院内認定訪問看護婦制度——在宅療養支援の質を確保するために，2，94-99.

村上睦子(日本赤十字社医療センター)：認定臨床実習指導者コースの策定——学び、学ばせる関係を通して得られる成長，2，100-104.

得丸尊子(大分医科大学医学部附属病院)他：看護過程を指導できる中堅の養成をめざして——大分医大プライマリナース研修の概要，2，105-114.

荒井留美子(静岡県立総合病院)他：めざすのは婦長の能力——静岡県立3病院の看護職員生涯教育体系構築，2，115-122.

大岡裕子(徳島大学医学部附属病院)他：看護の質向上に資する現任教育をめざして——徳島大学医学部附属病院におけるクリニカルラダーの開発，2，123-128.

福井トシ子(杏林大学医学部附属病院)他：生命倫理と向き合う意識を育む——臨床実践能力評

価ラダーのカテゴリーに加える試み，2，129-133.

ひとが育つ組織をつくる

コーチングとカウンセリング(3号)

宮崎順一(コーチネットワーク童夢)：看護管理に活かすコーチング，3，178-183.

坂井慶子(コーチ/看護師)：看護場面でのコーチング——自立したスタッフ育成の実際，3，184-188.

小林勝子(滝川市立病院)：看護管理者としてコーチングを受ける そして活かす，3，189-191.

池田優子(公立藤岡総合病院)：カウンセリング・マインドで看護はこう変わる，3，192-198.

どんな看護方式を選ぶ？(4号)

松田美佐子(日本大学医学部附属板橋病院)他：病棟の看護方式変革を支援するための委員会活動，4，256-262.

東克子(日本大学医学部附属板橋病院)：[コラム]委員長として看護方式検討委員会の活動を振り返る，4，263.

福丸恵子(日本大学医学部附属板橋病院)：看護方式を変更してみても——委員として、病棟責任者として振り返る：看護方式を変えたら意識が変わりました，4，264-265.

太田珠実(日本大学医学部附属板橋病院)：看護方式を変更してみても——委員として、病棟責任者として振り返る：よりよい人間関係の構築につながりました，4，266-267.

塩谷善子(日本大学医学部附属板橋病院)：看護方式を変更してみても——委員として、病棟責任者として振り返る：自ら考える看護にやりがいを感じてほしい，4，268-269.

松田美佐子(日本大学医学部附属板橋病院)：看護方式を変更してみても——委員として、病棟責任者として振り返る：患者様との関係だけが変化したわけではなく，4，270-271.

安藤智美(日本大学医学部附属板橋病院)：看護方式を変更してみても——委員として、病棟責任者として振り返る：実態に即して看護方式を考え続けます，4，272-273.

小林いつよ(日本大学医学部附属板橋病院)：看護方式を変更してみても——委員として、病棟責任

者として振り返る：病棟マネジメントを根底から見直しました，4，274-275。
一木順子(日本大学医学部附属板橋病院)：理念に合致した看護方式を求めて——看護部長としての構想と支援，4，276-278。
村上美好(済生会横浜市南部病院)：どんな方式であれ，めざすのは安全・安楽の提供，4，279-282。

激変期に求められる

看護管理者のリーダーシップ考(5号)

嶋森好子(京都大学医学部附属病院)／聞き手・福留はるみ(聖母女子短期大学)：[インタビュー]時代の先を創るリーダーを，5，336-341。
鶴田恵子(東京医科歯科大学医学部附属病院)：[インタビュー]次世代のリーダーへのメッセージ——自ら育つことを願う，5，342-343。
井部俊子(聖路加国際病院)：[インタビュー]次世代のリーダーへのメッセージ——論理と感性，そしてやる気，5，344-345。
久常節子(慶應義塾大学)：[インタビュー]次世代のリーダーへのメッセージ——政策決定に関わる看護全体のリーダーを，5，346-347。
宮子あずさ(東京厚生年金病院)：「看護がつらい」時代の看護管理者像，5，348-349。
青木節子(新日鐵広畑病院)：次世代リーダーをどう生み出すか——中間層のリーダーからの提案，5，350。
平井さよ子(愛知県立看護大学)：企業におけるリーダー育成と看護のマネジメント，5，351-356。
村島さい子(福岡県立大学看護学部開設準備室)：実践につながるリーダーシップを求めて——状況対応リーダーシップ®と看護管理，5，357-360。
村島さい子(福岡県立大学看護学部開設準備室)他：私たちの行なっているリーダーシップ勉強会——自律を求めて，5，361-364。

看護の質を評価する指標開発の動向(6号)

内布敦子(兵庫県立看護大学)：看護 QI 研究会活動報告——看護 QI プログラムによる第三者評価，6，416-421。
上泉和子(青森県立保健大学)：看護 QI 研究会活動報告——看護 QI プログラムの自己評価票の開発，6，422-425。
岩崎榮(日本医科大学)：日本医療機能評価機構がとらえる医療の質と第三者評価のメリット，6，426-430。
山岸まなほ(東京大学大学院)：米国看護師協会の看護質指標——米国での収集の現状と日本での実用化にむけて，6，431-436。

看護管理のナレッジマネジメント

—現場に活かす知とワザ(7号)

伊藤雅教(㈱ジョンソン・エンド・ジョンソン)・高梨智弘(㈱日本総合研究所)・坂本すが(NTT 東日本関東病院)：[鼎談]個を活かし組織力を高めるナレッジマネジメント，7，492-498。
金井 Pak 雅子(東京女子医科大学)：看護のナレッジマネジメントの基礎知識——ナレッジ・イネーブラーとしての看護師，7，499-504。
井部俊子(聖路加国際病院)：学習する組織の構築と看護管理者の役割，7，505-512。
本田五郎(済生会熊本病院)他：医療のナレッジマネジメントの集大成——済生会熊本病院の新クリニカルパスはどのようにしてできたのか，7，513-517。
大森綏子(関西労災病院)：看護のナレッジマネジメント実践——専門看護師の活用から，7，518-520。
伊豆上智子(東京医科歯科大学医学部附属病院)：看護実践にある“ナレッジ”を“形”にする取り組み——リサーチナースの活動から，7，521-523。
叶谷由佳(東京医科歯科大学大学院)：看護記録とナレッジマネジメント——患者サービスの質向上に向けた情報活用を考える，7，524-526。
木村憲洋(医療法人杏林会今井病院)：訪問看護ステーションでのグループウェアの活用——ITを活用したナレッジマネジメントの実践，7，527-529。

安全管理の視点から看護業務を見直す(8号)

福留はるみ(聖母女子短期大学)：看護業務に潜むリスクを洗い出す——リスクアセスメントによる実践的な業務改善，8，578-582。
井手ユミ子(社会保険都南総合病院)他：リスク感性を高める看護手順の見直し，8，583-586。
川合榮子(社会保険都南総合病院)：[コラム]新病院移転を逆手にとって改善活動につなげる，8，587。
山崎律子(聖隷三方原病院)：リスク情報を改善策と共に現場へフィードバック——医療安全対策委員会の活動が形になるとき，8，588-595。
橋本廸生(横浜市立大学医学部附属病院)／聞き手・増野園恵(兵庫県立看護大学)：[インタビュー]医療安全への取り組みを形骸化させないために——医療安全教育の可能性，8，596-602。

看護組織の人材マネジメントストラテジー(9号)

渡辺明良(聖路加国際病院)：病院を取り巻く環境の変化と人材マネジメントの課題，9，668-674。
松月みどり(日本大学医学部附属板橋病院)：コンセプトは「シンセイサイズ」という総合力——常

に変化する組織の多様な人材を活用するために、9, 675-678.
桑原安江(京都大学医学部附属病院)：新人教育から始める人材マネジメント——医療安全文化の醸成に向けて、9, 679-684.
縮育子(医療法人つくばセントラル病院)：病院激戦区で地域に根ざした病院としての組織づくりと実践、9, 685-689.
由井尚美(全国社会保険協会連合会)：組織的に取り組む人材マネジメントと看護管理者への支援、9, 690-695.

明日に備える組織をめざして

—聖マリアンナ医科大学病院の看護部再編(10号)
陣田泰子(聖マリアンナ医科大学病院)：看護部長交代と組織変化、そして創造へ、10, 746-752.
北原和子(聖マリアンナ医科大学病院)：人的資源の配分・統合を支援する——「ヒューマン支援ネットワーク」の活動、10, 753-759.
林芳子(聖マリアンナ医科大学病院)他：質の高い看護業務を提供できる環境づくり——「業務支援ネットワーク」の活動、10, 760-764.
松本喜代子(聖マリアンナ医科大学病院)：理念達成へ向かう教育プログラムの創造——「教育支援ネットワーク」の活動[1]、10, 765-770.
近藤昭子(聖マリアンナ医科大学病院)：新人看護技術チェックリストの作成——「教育支援ネットワーク」の活動[2]、10, 771-774.
陣田泰子(聖マリアンナ医科大学病院)：[コラム]これからの夢、「マリアンナの法則を創る!」、10, 775.

エラーを防止できるチーム体制めざして(11号)

佐相邦英(勸電力中央研究所ヒューマンファクター研究センター)：チームによるエラー防止に向けて——チームエラーの概念から考える、11, 826-829.
嶋森好子(京都大学医学部附属病院)：チームエラー理論からみた医療事故防止における看護師の役割、11, 830-835.
本田五郎(済生会熊本病院)：チーム医療とリスクマネジメント——リスクマネジメントツールとしてのクリニカルパスの役割、11, 836-841.
鷹野和美(広島県立保健福祉大学)：チーム医療は過誤撲滅の魔方陣たり得るのか——機能的チーム医療を探る、11, 842-846.

職場運営の悩み 人間関係マネジメント(12号)

武井麻子(日本赤十字看護大学)他：[座談会]看護現場を預かる婦長の困りごと、12, 908-912.
武井麻子(日本赤十字看護大学)：[コラム]座談会

を終えて・過渡期に立つ看護と婦長の仕事、12, 913.
江藤かをる(エデュネット協会)：職場の人間関係を左右する管理者の姿勢——部下を組織人として育てられるか、12, 914-917.
松田由美(鳥取市立病院)他：円滑なチームワークの秘訣——固定チームナーシングの理念を活かした看護部運営、12, 918-922.
杉尾節子(東京都立大塚病院)：目標管理の運営で考慮していること[1]——組織目標の達成を支える人間関係、12, 923-925.
那須野合子(東京都立大塚病院)：目標管理の運営で考慮していること[2]——和気あいあいではなく組織人として尊重し合う、12, 926-929.
渡邊宣子(熊本大学医学部附属病院)他：マンツーマンの指導に任せきりにしないプリセプター制度づくり、12, 930-937.
堀川直史(東京女子医科大学)：看護師のストレスとメンタルヘルスケア——看護管理者に求められること、12, 938-941.

焦点

どうなる!? 「看護必要度」

筒井孝子(国立公衆衛生院)：急性期病棟における「臨床的看護必要度」に関する研究——「手間がかかる患者」を判断する基準とは、1, 40-46.
星和夫(青梅市立総合病院)：「看護必要度」は本当に必要か、1, 47-52.

アクション・リサーチ法を用いた

事故防止システム開発の試み

安川仁子(宮城大学)他：看護・医療事故防止に取り組むための基盤づくり、5, 375-381.
和賀徳子(厚生労働省看護研修研究センター)他：看護職全員の参画によるシステムづくりの実際、6, 449-454.

2002年診療報酬改定と現場への影響

谷野浩太郎(社会保険旬報編集部)：診療報酬改定のねらいと医療現場へのインパクト、6, 443-448.

人材育成につなげるこれからの評価制度

甲斐聖人(済生会熊本病院)：コンピテンシーを取り入れた人事評価制度——済生会熊本病院の人材マネジメント、7, 537-542.
小山久子(東部町医療福祉センター・町立ひまわり病院)他：目標管理による勤務評定とその効果——自治体病院の試み、7, 543-550.

これからの電子カルテとクリティカルパスのカタチとコンセプト

武藤正樹(国立長野病院)：医療制度改革とクリティカルパスの近未来イメージ——2010年クリティカルパスの旅、8, 611-619.

依田安代(NTT 東日本関東病院)：これからの電子診療録と電子化CPの運用——記録の標準化に向けて、何を記録し、情報をどう取り扱うか、8, 620-626.

野村一俊(国立熊本病院)：地域完結型医療におけるクリティカルパスの役割, 8, 627-631.

副島秀久(済生会熊本病院)：グローバルスタンダードの医療記録の条件, 8, 632-635.

特別記事

森 功(医療法人医真会)：医療事故処理法の国際的概況と日本の歩むべき道, 1, 54-60.

田中幸子(東京大学大学院)：教育から臨床へ——人前の看護婦を育てる——札幌・琴似看護専門学校勝又マリ子副学校長の教育, 2, 134-139.

坪倉繁美(厚生労働省看護研修研究センター)：看護職の社会的位置付けとしての保助看法を考える——2001年の改正点を中心に, 2, 144-147.

稲葉一人(京都大学大学院)：医療事故の予防と紛争解決のための新しいシステム——元判事として医療者と共に患者を救済する道を探る, 3, 218-223.

上原鳴夫(東北大学大学院)：医療の質改善活動の流れ——めざすのはTQM, 3, 224-229.

和田ちひろ(HCRM研究会)：患者中心の参加型医療の評価の視点——「患者満足」を組織として提供するために, 4, 286-290.

叶谷由佳(東京医科歯科大学大学院)他：看護婦／士から看護師へ、看護職に問われる新しいイメージ——ナースキャップのもつ意義と看護職の意識の変遷, 4, 292-296.

四方克尚(岡山旭東病院)：患者アドボカシー室の役割と実践——他部門との協働から, 4, 298-302.

桑田美代子(青梅慶友病院)：看護介護開発室長の役割と実践——新しいポジションに挑む, 5, 370-374.

小西知世(明治大学大学院)：保助看法改正の成果と課題——法律家の視点から, 5, 382-386.

岩澤和子(厚生労働省)：医療機関別包括評価のねらいと看護の3つの観点, 7, 530-532.

高橋真司(芝大門法律事務所)：医療過誤後の不誠実な対応と損害賠償責任——医療過誤被害者の権利から考える, 7, 554-557.

川渕孝一(東京医科歯科大学大学院)：国立大学の独立行政法人化が促す新たな病院経営, 9, 700-707.

草刈淳子(愛知県立看護大学)：今、改めて看護管理の起点を振り返る——「病院経営管理改善懇談会」(昭和35年)の歴史的意義, 9, 714-720.

鶴田恵子(東京医科歯科大学医学部附属病院)・広井

良典(千葉大学)：[対談]めざすケアの実現を叶えるために——医療制度改革に向けて看護職も政策提言を, 10, 780-785.

Arnold J Rosoff(ペンシルバニア大学)：臨床実践ガイドライン——EBMによる医療の質・コストの両立, そしてリスク管理, 10, 786-790.

平良慶子(沖縄県立中部病院)他：感染管理の波及効果——NICUのケアがここまで変わった, 10, 792-797.

鈴木定(岡崎三田病院)：褥瘡対策未実施減算Q&A——看護管理者として再点検したい30項目, 11, 852-859.

鷺田清一(大阪大学大学院)・飯島恵道(東昌寺)：[対談]スピリチュアルケアから緩みの看護へ, 11, 862-868.

榮木実枝(山口大学医学部附属病院)：ナースキャップ廃止から新ユニフォームの導入へ——機能性を重視して, 脱白衣, 11, 870-874.

河野龍太郎(東京電力㈱技術開発研究所)：ヒューマンファクター工学からみた医療システムの安全性——他産業と医療のシステムの比較, 12, 946-952.

山口千鶴子(富山医科薬科大学附属病院)：目標管理のゆるやかな定着とスタッフのモチベーション向上のために, 12, 954-958.

実践報告

大垣ひろみ(日本赤十字社医療センター)：「HIV相談窓口」立ち上げに携わって——めざす看護のために組織を動かす, 3, 203-208.

最所浩美(日本赤十字社医療センター)：「HIV相談窓口」立ち上げに携わって——婦長としての支援, 3, 209-213.

藤澤やゑ子(東北大学医学部附属病院)他：看護部から始める継続医療, 11, 876-883.

研究報告

平岡敬子(呉大学)他：看護婦(士)役割に関する医師と患者の意識差——インフォームド・コンセントに関して看護婦(士)に期待されていること, 3, 214-217.

調査研究

齋藤康子(㈱アクティブライフ在宅サービス部)他：抗悪性腫瘍剤取り扱いの実態調査, 12, 959-961.

短報

廣瀬規代美(群馬県立医療短期大学)他：看護婦の身だしなみの規定に関する調査, 10, 804-805.

伝えたい話

驚沢一彦(長野赤十字病院)：病院から地域へのケアの広がり——“ながの子どもを虐待から守る会”の活動, 1, 62-65.

尾上裕子(東京大学医科学研究所附属病院)：「患者さんのため」を支える私の看護の原点, 8, 649-651.

高村志穂(看護師)：患者からの暴力にどこまで耐えるのか——看護の危機, 9, 723-725.

吉田澄恵(順天堂医療短期大学)：看護行為は倫理的問題と紙一重, 11, 884-886.

BOOK MARK

石原美和(厚生労働省)：「医療安全推進総合対策」報告書から, 8, 603-605.

本誌編集室：第6回日本看護管理学会が開かれる, 10, 798-800.

連載 シネ・プロフィール

片場嘉明(厚生中央病院)：

⑬ミュージカルで晴れ晴れと, 1, 1.

⑭クーパーへの鎮魂, 2, 89.

⑮フィルム・ノワールに浸かる, 3, 173.

⑯ギャバンの粹と匂い, 4, 251.

⑰フランスの貴公子, 5, 331.

⑱イタリア映画のネオ・リアリズム, 6, 411.

⑲『第三の男』のアリダ・ヴァリ, 7, 487.

⑳原作を超えた『第三の男』, 8, 573.

㉑小川に漂うオフィリア, 9, 663.

㉒切手になったマリリン, 10, 741.

㉓妖精は眠った, 11, 821.

㉔鉗子をもつ指, 12, 903.

連載 続・白衣のポケット

志水夕里：

⑬「初めて」という心細さ, 1, 74.

⑭「好き」, 2, 156.

⑮切り取られた生活, 3, 236.

⑯新天地, 4, 316.

⑰何もしなくていい, 5, 398.

⑱生は誰のもの, 6, 468.

⑲女の敵, 7, 560.

⑳最後のドレス, 8, 648.

㉑そんなこと言わないで, 9, 726.

㉒宝物, 10, 806.

㉓知る責任, 11, 888.

㉔Give and take, 12, 970.

連載 amans 恵道通信

飯島恵道(東昌寺)：

⑬回向返照, 1, 84-85.

⑭拈華微笑, 2, 168-169.

⑮伴奏, 3, 244-245.

⑯感応道交, 4, 324-325.

⑰看取りの周辺(一)看取り後四十九日間, 5, 406-407.

⑱看取りの周辺(二)スピリチュアルな絆を結ぶ, 6, 480-481.

⑲看取りの周辺(三)もっと視野を広げて見てみよう, 7, 568-569.

⑳カルテの余白, 8, 658-659.

㉑スピリチュアルって何ですか?, 9, 736-737.

㉒いのちのつながり, 10, 816-817.

㉓主役, 11, 898-899.

㉔さようなら, 12, 974-975.

連載 事例で学ぶ看護管理

—組織行動学的視点の活用

稲田三津子(日本赤十字看護大学)他：

⑬組織構造と構成員の態度や行動, 1, 80-83.

⑭組織変革を成功させる力・阻む力, 2, 164-167.

⑮連載終了にあたって, 3, 246-248.

連載 公立富岡総合病院・青木孝子

—その人と実践

林千冬(群馬大学→神戸市看護大学)：

④改革への胎動・初期の業務改善, 1, 75-79.

⑤改善の連鎖・さまざまな改革の素地, 2, 150-155.

⑥前院長と盟友・看護副部長の支え, 3, 230-235.

⑦結実・新病院の稼働と看護職の副院長, 4, 310-315.

⑧富岡のいま・役者ぞろいの婦長たち, 5, 394-396.

⑨新しい時代へ・婦長たちに伝わる想い, 6, 462-467.

⑩そして——終わりなき挑戦, 8, 652-657.

連載 ボランティアがつくり支える病院

西村由美子(スタンフォード大学アジア／太平洋研究所)：

①ある日のルシール・バックード小児病院, 1, 70-73.

②ボランティアの採用とプログラム, 2, 160-163.

③患児のQOLを高めるための仕事, 3, 240-243.

④アメリカ社会で期待される人物像, 4, 320-323.

⑤Home away from Home——マクドナルド・ハウス, 5, 402-405.

⑥アメリカのボランティアの真骨頂, 6, 474-479.

連載 迷える・悩める・このデータ

星野桂子(国立医療・病院管理研究所→国立保健医療

科学院)：

- ①「はいはい」も「はいかい」も移動ADL自立？，1，37.
- ②移動ADL自立の謎 part 2「火事場のADL」，2，142.
- ③「排泄要介助」なのに「介助実施なし」？，3，199.
- ④要介助でも介助なしの謎 part 2「もしや家族が」，4，283.
- ⑤「食事なし」でも配膳・下膳されている？，5，367.
- ⑥週に何回入浴できますか？，6，441.
- ⑦どんな患者が入浴介助されるのか？，7，533.
- ⑧調査報告書が間違っていた？！，8，607.
- ⑨母のない児と，児のない母と？！，9，699.
- ⑩手術と検査の境界線はどこ？，10，779.
- ⑪二交替？ 三交替？ 変則三交替？！，11，847.
- ⑫やっぱり「看護」のデータは難しい！，12，945.

連載 楽患ほすびたる

岩本ゆり，山西智香(楽患ねっと)：

- ①売店は病院の顔！？，1，38-39.
- ②SECOND OPINION，2，140-141.
- ③楽患らいぶらり——患者がぶらりと立ち寄る図書室，3，200-201.
- ④病院ボランティアにしかできないこと，4，284-285.
- ⑤楽患ちるどれん——子ども同士でつながろう，5，368-369.
- ⑥患者コミュニティの必要性，6，438-439.
- ⑦できないことより，できること，7，534-535.
- ⑧入院中と退院後にできる関わり，8，608-609.
- ⑨相手を，そして自分を知ること，9，696-697.
- ⑩患者さんに選ばれる外来づくり，10，776-777.
- ⑪死の悲しみを受け止めるために，11，848-849.
- ⑫みんなで支え合えるコミュニケーション環境づくり，12，942-943.

連載 チーム医療の現場から医療制度を考える

本田宏(埼玉県済生会栗橋病院)他：

- ①いったい誰のための医療なのか，1，68-69.
- ②お葬式とわが国の医療費，2，157-159.
- ③今こそ職種を越えた連携を，3，237-239.
- ④「安かろう悪かろう」あきらめが肝心！？，4，317-319.
- ⑤診療報酬改定がチーム医療に与える影響，5，399-401.
- ⑥それでも，政府だけに任せておける？，6，469-472.
- ⑦「情報公開」待ったなし，7，558-559.
- ⑧在院日数短縮に伴う問題，8，638-641.

⑨Careful for Caregiver，9，727-729.

⑩住民基本台帳ネットワークのトラブルから見えるもの，10，807-809.

⑪「医食住足りて」日本はどこへ行く？，11，889-891.

⑫傍観者のままでいるのは止めよう，12，971-973.

連載 看護師の働き方を経済学から読み解く

角田由佳(前 国立社会保障・人口問題研究所)

- ①「看護サービス」を経済学で捉えると，4，304-309.
- ②なぜ他職種の業務も背負い込むのか？，5，388-393.
- ③高い技能をもつ看護師ほど損をする，6，456-461.
- ④無視できない「結婚」と「出産・育児」，7，562-567.
- ⑤看護師が搾取される市場構造，8，642-647.
- ⑥看護師の雇用の現状から見えること，9，730-735.
- ⑦教育の差から見た看護師の賃金格差，10，810-815.
- ⑧労働市場の二重構造が格差を生む，11，892-897.
- ⑨異なる賃金決定メカニズムの並存，12，964-969.

BOOK REVIEW

評者／三ツ井圭子(三井記念病院高等看護学院)『言語聴覚士のための失語症訓練教材集——ハイブリッドCD-ROM付』(立石雅子編)，2，148.

評者／松野征美子(兵庫県立総合リハビリテーションセンターリハビリテーション中央病院)『食べるって楽しい！ 看護・介護のための摂食・嚥下リハビリ』(田中靖代編)，2，149.

評者／山崎律子(聖隷三方原病院)〈JJN スペシャル〉No. 70『注射・点滴エラー防止——「知らなかった」ではすまない！事故防止の必須ポイント』(川村治子編)，4，297.

評者／押田茂實(日本大学)『刑事医療過誤』(飯田英男・山口一誠編)，4，303.

評者／堂前美佐子(堂前法律事務所)『医療事故の法律相談』(鈴木利廣・羽成守監修)，5，365.

評者／江守陽子(筑波大学)『看護と医療事故——分析・対応・防止』(石井トク)，5，387.

評者／林千冬(神戸市看護大学)『21世紀初頭の医療と介護——幻想の「抜本改革」を超えて』(二本立)，6，437.

評者／木村哲(東京大学)『エイズ・クオリティケアガイド』(石原美和編)，6，455.

- 評者／林千冬(神戸市看護大学)『看護サービス管理第2版』(中西睦子編), 7, 553.
- 評者／勝原裕美子(兵庫県立看護大学)『ケアの向こう側——看護職が直面する道徳的・倫理的矛盾』(ダニエル・F・チャンプリス), 7, 561.
- 評者／加納佳代子(八千代病院)『「グループ」という方法』(武井麻子), 8, 610.
- 評者／高島尚美(筑波大学医療技術短期大学部)『糖尿病のケアリング——語られた生活体験と感情』(ジェリー・エーデルウィッチ, 他), 8, 636.
- 評者／小路美喜子(東京慈恵会医科大学附属病院)『完全なる経営』(A・H・マズロー), 8, 637.
- 評者／鈴木利廣(鈴木利廣法律事務所)『ハーバードの医師づくり——最高の医療はこうして生まれる』(田中まゆみ), 9, 709.
- 評者／中西睦子(国際医療福祉大学)『にわか役人奮闘記——久常節子の看護課長体験』(久常節子), 9, 721.
- 評者／工藤晶子(都立荏原病院)『腰痛を防ぐらくらく動作介助マニュアル——動画ハイブリッドCD-ROM 付』(山本康稔, 他), 9, 722.
- 評者／小松美穂子(茨城県立医療大学)『看護にいかすクリティカルシンキング』(マリー・A・ミラー, 他), 10, 791.
- 評者／綿貫恵美子(北里大学)『アメリカにおける医療過誤と看護婦の責任』(良村貞子), 10, 802.
- 評者／西村ユミ(日本赤十字看護大学)『べてるの家の「非」援助論——そのままがいいと思えるための25章』(浦河べてるの家編), 10, 803.
- 評者／加納佳代子(八千代病院)『看護にいかすリーダーシップ——状況対応とコーチングの体験学習』(諏訪茂樹), 11, 851.
- 評者／飯塚悦功(東京大学大学院)『キュアリング・ヘルスケア——新しい医療システムへの挑戦』(D・M・バーウィック, 他), 11, 860.
- 評者／長谷川雅子(新潟県立がんセンター新潟病院)『ヒヤリ・ハット報告が教える内服与薬事故防止』(川村治子), 11, 861.
- 評者／高木安雄(九州大学大学院)『医療の質——谷間を越えて21世紀システムへ』(米国医療の質委員会/医学研究所), 11, 869.
- 評者／桑田美代子(青梅慶友病院)『高齢者ケアをどうするか——先進国の悩みと日本の選択』(高木安雄監修), 11, 875.
- 評者／中根薫(神戸市看護大学)『臨地実習のストラテジー』(キャスリーンBゲイバーソン, 他), 12, 953.
- 評者／小幡光子(大分医科大学)『看護研究ガイドマップ——ハイブリッドCD-ROM 付き』(川口孝泰), 12, 962.
- 評者／田村恵子(淀川キリスト教病院)『水平線の向こうから』(堂園晴彦), 12, 963.
- 評者／深谷きみ子(埼玉県済生会鴻巣病院)他『病棟から始めるリスクマネジメント』(嶋森好子, 他), 12, 977.